

資料④「輪島塗 生産再会へ奮闘」老舗工房『善仁』川越さん

能登半島地震により家族や友人などの大切な人や物を失った人が多く、先の見えない復興に不安な気持ちをぬぐい切れない人がまだまだ沢山いる。そんな中で、輪島塗の生産再開を待ち続ける人たちのために、前を向いて進んでいる川越さんと今の自分を比べ、私も前に進み続けなければいけないと改めて感じた。今の日本は今回のような災害がいつ誰の身に降りかかってもおかしくない。このような状況の中で自分に何ができるか、今の自分に何が必要か、日々自分を見つめ直しアップデートしていかなければならないと強く感じました。残りの大学生活を入学前よりも多くの知識、経験、友人、思い出を増やし将来に向かって精進していきたいと思います。

私は石川の大学に進学し、毎日のように地震の被害や復興に進もうとしている石川の人々に関するニュースを見ている。石川に住んでいるからこそ現地の人の実際の声から復興がなかなか進まない現状を聞いた。この記事を読んで、横手にかかわりのある人が秋田の伝統工芸が身近にあったことをきっかけに輪島市で活動していること、そして能登半島地震の被害を受けていることを知って非常に驚いた。ものづくり産業が活発である石川で、建物を失ったことによってものづくりの再開を断念することを決める方も多いと聞いた。そんな中で活動を続けることを決断した川越さんには同じ横手市出身の者として、頑張っ作品作りを続けてほしいと思った。伝統工芸の貴重な技術を失ってしまうことがないように職人の方々が技術を発揮できる場所を確保できるように、またその技術の継承ができるように復興が順調に進んでほしいと思った。